



無表情だけぞすごい

クールでメガネ美人な

くじょう

九條さんはライトノベルの

KUJO-SAN

ヒロインみたいに

Produce by アトリエTODO

エロ可愛い。

Atelier TODO delivers a special erotic experience that will give you a new, exciting and thrilling experience.

01

Kujo-san is quite a perver and loves erotic novels.

エロ小説は
大好好き
九條さんは
かなり変態

AOHARU SEX

漫画：しるこ

シナリオ：ウラジーミル



STORY

これはある夏の日に起きた ちょっとした『事件』のお話

「これはある夏の日に起きた
ちょっとした『事件』のお話」

ミリタリーオタクの小野寺タクヤ。

趣味はオタクだけどどこにでもいる平凡な

男子だった。しかしそんなタクヤには

超絶美少女の彼女がいた。

名前は「九條真那(くじょうまな)」

周りからは「氷の女帝」と呼ばれるほど

無表情でクールで近寄りたがたい雰囲気的美少女。

なぜこの二人が付き合い出したかというと…

きっかけは1ヶ月前の出来事だった!

放課後掃除をしていると、九條さんの机から
まさかのエッチな官能小説を見つけてしまうタクヤ

その様子を九條さんに見つかってしまう。

「絶対に内緒にする!」と約束したら小説みたいな

エロいことをしてくれるとのこと!?

一体全体どういうこと!?!?!となったけど

可愛すぎる九條さんに誘惑されるとタクヤも

我慢できなくなった!!!!



こっそり教室でプールでラブホテルで!!!

クールな美少女九條さんのご奉仕プレイが止まらない!

こんなアオハルエッチしてみたい気持ちになること間違いなし!

ライトノベルのヒロインみたいに可愛い九條さんと

ひたすらイチャラブSEXたっぷり53ページ収録!!!



CHARACTER



さあ、今日はどんなプレイにしましょうか？

九條真那

Kujo Mana

クールで高嶺の花と思われてるが、じつはちょっと天然が入った女の子。目が悪いために目つきがきついが別に睨んでいるわけではない。



…い、いえっ！
自分中は
見てませんッ！

小野寺タクヤ

Onodera Takuya

主人公。誰にでも丁寧語で話す。気弱だが、曲がった事が大嫌いで筋を通すことを知っている小柄なミリオタ少年。



漫画：しるこ

シナリオ：ウラジーミル

この作品はフィクションです。
実在する人物・団体などとは
一切関係ありません。

これはある
夏の日に起きた
ちよつとした事件の話

自分の名前は
小野寺タクヤ
どこにでもいる
平凡…いや…

ちよつとオタクな
学生です

好きなジャンルは
ミリタリー

小柄で体力も
人並み以下
ですが…

キーン
コンコン
コンコン

将来は自衛官になって
悪い奴らから

皆を守れるような
男になりたいと
思っています

そんな平凡な
自分ですが…
一つだけ
自慢できることが
あります

あっ…

それは—

ガラ





…は、はいっ



小野寺くん。
一緒に帰りましょう

美人だがクールで
近寄りたいたいと評判の
ラブベヒロインみたいな
美少女彼女がいる事!



彼女は九條真那
今も飛び交う
噂通りの人で

え…。なんで小野寺と
九條と一緒に帰ってんの？
まさか付き合ってるのか

いや、ありえんのだろ。
あの氷の女帝「九條」だぜ？
むしろほらカツアゲじゃね？
九條が小野寺から

ああ、なるほど…

そんな彼女が
僕の恋人に：
これは正に事件です!!



…私に何か？

えっ…!? いや、何でも
ありません、ハイ!

どうぞお気をつけて
お帰りください!



…私、怯えられてる？

…いえ、そんなことは
ないかと…

…たぶん



…問題ありません
真那さんが心優しい
女性であるのは
自分がよく知っているのです



…私、別に睨んでる
わけじゃないのに

ああ…！
真那さん、可愛過ぎる…！
自分の彼女が
こんなに可愛いわけがない…！



…そっか。
じゃあ問題ないね

ああ…！
そのはにかむような笑顔！
学校という灰色の監獄に咲く
一輪の太陽！
自分には目映すぎるのであります

にこにこ



そうね。
たとえば――



…ど、どこかと
言いますと？



…ねえ、どこか
寄っていく？

この革の
ブックカバーは確か…

…そっだ

いつも九條真那さんが
読んでいる

いけないことだとは
わかっていました。
しかし、彼女が
真剣に読む本を
知りたいという
欲望に抗えなくなって
しまったのです

いったい真那さんは
いつもどんな本を
読んでいるのだから…？

ガッ



…え？
こ、これって…

こ、これはもしかして
いわゆる官能小説と
いうヤツでは…

と、とにかく
何も見なかったことにして
こっそりと机の中に…

…小野寺くん？

…その本、
中を見たの？

!? 九條さん？







近い！近いです！
九條さん！

…このことは
内緒にして

はあ



もし黙っていて
くれるなら

え…？



あ、あの…その…

もちろん言いふらすつもりなど
毛頭ありませんでした



…そうね

黙っていて
くれるなら



だ、黙っていて
くれるなら…？

グ
グ
グ

しかし、自分の身体は
石のように固まって
動かなくなっていたのです

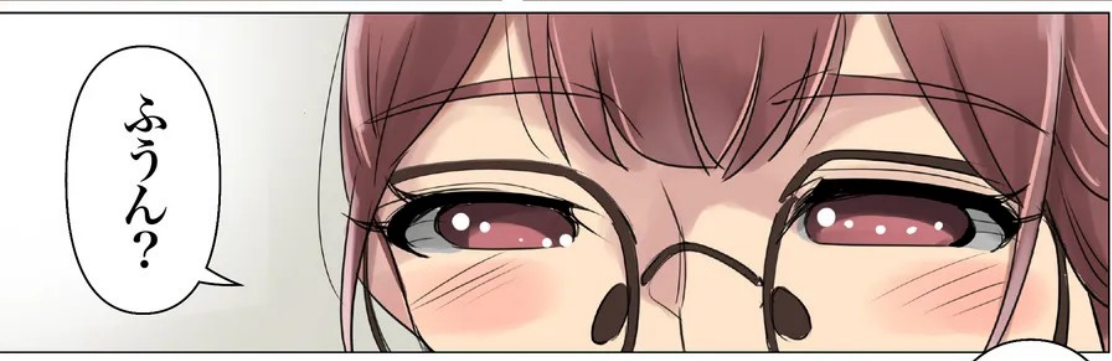




…もうこんなにしちゃって…
もしかして、こういう展開
期待してた？



あつ…



ふうん？



いいえ、
決してそういう
わけでは…

あつ♡
あつ♡
あつ♡



ん…♡あつ…♡
へろお…♡

あつ…♡はあ…♡
そ、そんな…♡

あつ♡



え……？



……でも、そういうことは
しなくて結構です



自分は
女性の弱みにつけこんで
そういうことを強要するのは
好きではありません

本当は……本当はめっちゃくちゃ
そういうことしてもらいたいけど……!!



……



ファッ...!?

ガッ

ガッ

キヤアアアアアアア!?

ガッ

ガッ

そういう自分だけ頼み事を聞いてもらうようなフエアじゃないことは

私も好きじゃないの

ガッ

え...?

私と貴方、ちよつと似てるかもね

わっ



…や、やめてください。
誰かに見られたら
どうするんですか…

はあ、

ぶわん
ゆるん

ぷち
はあ、



あつ…♡そんな…
くああ…♡

ゆるん
おあおあ…♡



そ、それは
きみがっ…

はあ、

じゅわん
はあ、

はあ、

はあ、

だから、責任を持って
抜いてあげると
言っているの

はあ、

決まる



大丈夫よ。
それよりも
こんなギンギンにして
外を歩いている方が
問題だわ

じゅわん

じゅわん



そ、そんな…
ああ言えば
こう言つて…
ふああああ!!?

ぷんぷん♡



はあ、
…小野寺くんのおちんちん、
私のおっぱいの間で、
どんどん大きくなつてる…♡

はあ、

そりゃ大きくもなりますとも

ぷんぷん♡



男の人って
こういうの好き
なんでしょ？

あつ…そんなつ…
だめですつ…

ぶつちやけ
大好きですつ!!!

ぷんぷん♡



—イクッ!!!



このときの自分は
まだ想像もしていませんでした
この出来事をきっかけに
自分と真那さんの関係が
急速に発展していくことなんて



…じゃあ、
私はこれで。
約束は守ってね

えっ…あ、はい、
もちろん…



…あ、あの…九條、さん？



く、九條さん…
あ、あのっ…その

はあ、

はあ、

その翌日

——気まずくて
目を合わせられない

キラッ

ヒイヒイヒイ!
に、睨まれてるっ……!!

キッ

早く来て
放課後……ッ!

帰ろう……!
今日の放課後は
誰とも目を合わせずに
一目散に帰ろうッ……!!

そして放課後

よし九條さんは
本を読んでる



タクヤのターン。
タクヤはいちもくさんに
にげだした。

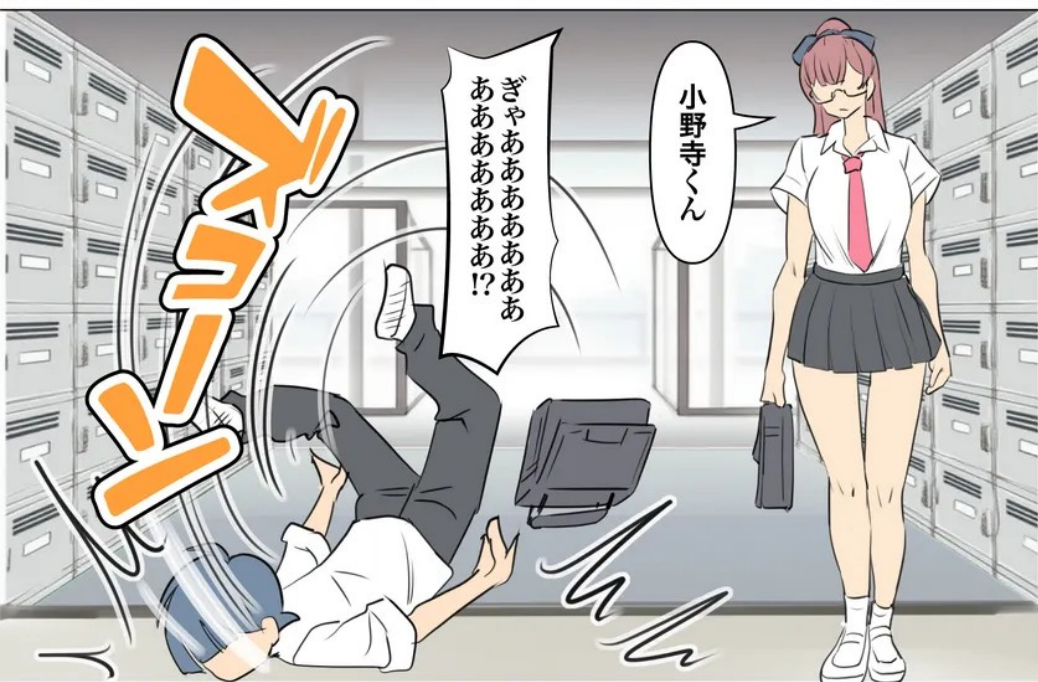


下駄箱!
何とか逃げられ…



小野寺くん

ぎゃあああああああ
あああああああ!?



いいつのまに
まわりこまれて
しまったのかしら…?



話があるの。
教室に来て



は、はい…

約束守ってくれたみたいだね

それは…約束ですから

官能小説だと
こういった約束は
必ず破られる
ものなのだけど

現実と
虚構の区別は
つけた方がいいと
思います…

そうね。
約束は約束
だものね

そうですよ。
話はそれだけですか。
では自分はこれで…

昨日の続きをしましょうか？

だって、まだあの本に書かれていないの半分もやっていないわ

…約束は約束だもの、ね？

はあ、

はあ、

あつ…♡はあ…♡
くう…♡そこっ…♡
いっ…♡もっ…♡
もっ…♡と舐めてっ

じゅわん
じゅわん
じゅわん

ブル
ザッ

ブル
ブル



じ、自分は何をやっているんだ...?
これは夢か?自分はまだ
夢の続きを見ているのか?

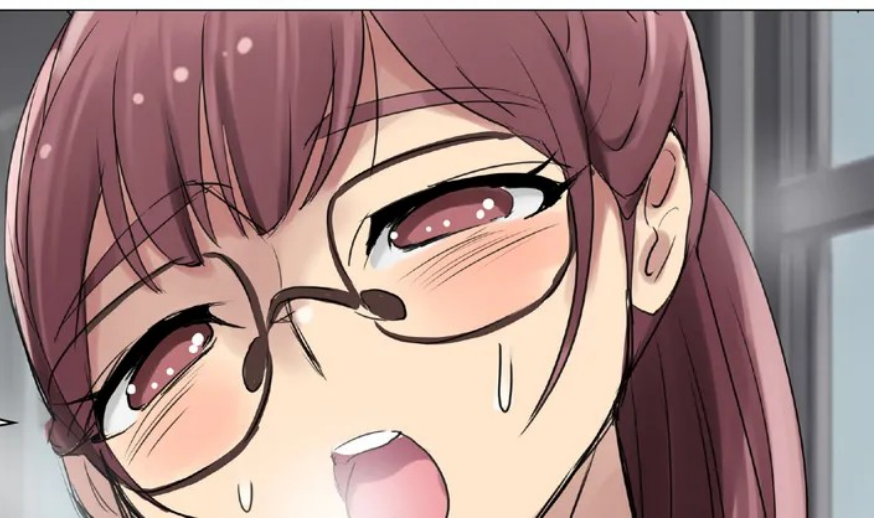
でも、夢にしては
あまりに生々しすぎる
この匂い、この味、この感触...



...?
?



...もう充分ね。
じゃあ...





そろそろ
ちようだい…♡
あなたの
おちんちん…♡

しゅわん
びん



あつ…♡違う…♡
そこじゃないわ…♡



…そんなにおちんちんを硬くしてまだそんなこと言ってるの？

そ、そんな…
ほ、本当にいいんですか…？



あ…こ、これが…女の人の
膣内…熱くて…狭い…♡
もつと、もつと感じたい…♡

…あ♡あ…♡
あ♡あつ…♡



あ…あ…ああつ…

…そこじゃない。
そう…こつち…♡



は、入ってしまった…。
じ、自分のおちんちんが…。

全部、真那さんの膣内なかに…



はあ…♡はあ…♡
動いて…♡

あ、は、はい…



もつと奥にツ…!!



…小野寺くん。
お尻も指で
いじって…♡

えっ…ええっ…!?



ご…ごう…
ですか…?

あッ…♡くう…♡
そうつ…♡
そこいつ…♡



あつ…♡はあつ…♡はあつ…♡



く、九條さんっ…!!
自分、もうっ、もう
いつてしまっそうで
ありますっ…!!



あつ…♥はあつ…♥
そ、そんなこと言わないでっ…♥
そんな官能小説の竿役みたいなこと
言わないでっ…♥

あつ…ああつ…
九條さんのお尻の穴が
僕の指を…



あつ…♥はあつ…♥
イクツ…♥
イクイクイク

いい、よっ…♥きてっ…♥
小野寺くんのザーメンで…♥
私の膣内をぐちゃぐちゃに
蹂躪してっ…



イクウ

ツ♡

はあ…はあ…
く、九條さん…
だ、大丈夫…
でした、か…？



…おいしかった♡
それじゃあ、また
明日の放課後、ね…♡

は、はい…
…って、ええ!?

— そう言っ
あやしく微笑む
真那さんに
自分ももう
頷くことしか
できませんでした



んちゅ♡んぐ♡
ぺろお♡

これが…♡
小野寺くんの精子…♡

♡

それから数日間――

自分達は放課後、毎日のように二人でセックスに耽りました。

あつ……♡はあ……♡
んう……♡
くあああつ♡

たぶん

たぶん

はあ♡はあ♡はあ♡
はあ♡はあ♡はあ♡
はあ♡はあ♡はあ♡

あるときは教室で――

またあるときは
かび臭い体育倉庫で――

ああつ……♡ひらっ……♡
んう……♡ああつ……♡

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

はあ

またあるときは
夜のプールで――

く、九條さん…
そ、その格好は…？

中学校のときの
水着を着てきたの…？
変…かしら…？

いや、決して
変というわけでは
ないのですが…

ぽつんぽつんでっ…！
ぽつんぽつん過ぎて
自分には目に毒なので
ありますっ…！！

しかし…どうして
わざわざ中学の水着を…？

だって、高校の水着は
まだ使うからイタズラ
できないでしょう？

はい。これ。

そのハサミで私の水着を
好きなように
切り刻んで…♡

な、なんですって——！？

この間の官能小説に
そういうシーンが
書いてあったの

い、いったいどこで
そのようなハイレヴェルな
遊びを…

官能小説家の先生、
天才かよっ…！！

ズ…

あ…♡あんっ…♡



…っ♡こ、これは
想像以上に
恥ずかしいわねっ…♡

…九條さん！
自分、もう
我慢できません！

いやいや、
エロ過ぎでしょう！！

あつ…♡やつ…♡
あああ—♡
ツ♡

ズズズ
カカカ



あつ…♡やつ…♡
ンツ…♡はげ…激しいっ…♡
こんなのすぐイっちゃうっ

ああ…！！
真那さんのおまんこっ！
どんどん狭くなつて
自分のイチモツを
キュウキュウ
締め付けてっ…

九條さん…！！
自分、もう
イケますっ…！！

私もっ…♡来てっ…♡
私の膣内に全部出してっ…♡

ああつ…！！イクイク

ああつ…！！イクイク



はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

ツ♡

—イクツ!



…小野寺…くん?

小野寺くん… 今日も凄かったよ…

月明かりに照らされた真那さんの美しい秘部を見て自分はふと我に返った

このままではいけない彼女の弱みにつけこんでいつまでもこんなことを続けるわけにはいかない

そう思ったのでした

ドクドク

そして、
その翌日

さあ、今日はどんな
プレイにしましょうか？

昨日の水着でのプレイも
良かったけれど、
カビ臭い体育館倉庫での
行為も悪くは…

…九條さん。
もうやめにしましょう

え…？

もうあの小説に
書かれているプレイは
一通り済ませたでしょう？

もう充分約束は
果たしてもらいました

小野寺くんは
私にこういうことを
されるの迷惑？

え…？



え……?



…迷惑なんかじゃありません

でも、やっぱり嫌なんですよ。自分のことを嫌っている相手に、その弱みにつけ込んでこんなことをさせるのは…



だから、もう終わりにしましょう

嫌いな人間の言う事を信じろと言われても難しいかもしれませんが…先日言ったとおり自分は九條さんの趣味を言いふらすつもり全くありません



九條さんが自分のことを好きじゃないのは知っています。ときどき遠くから睨むような視線を感じてましたから



私は貴方を睨んでいたわけじゃない

ただ遠くから見つめていただけ。私、目つきが良くないから



…違う

え…



え...?

...好き、だったから



そう、だったんですか...? でも、どうして自分を...



~~~~~

...私の気持ち、わかってくれた?



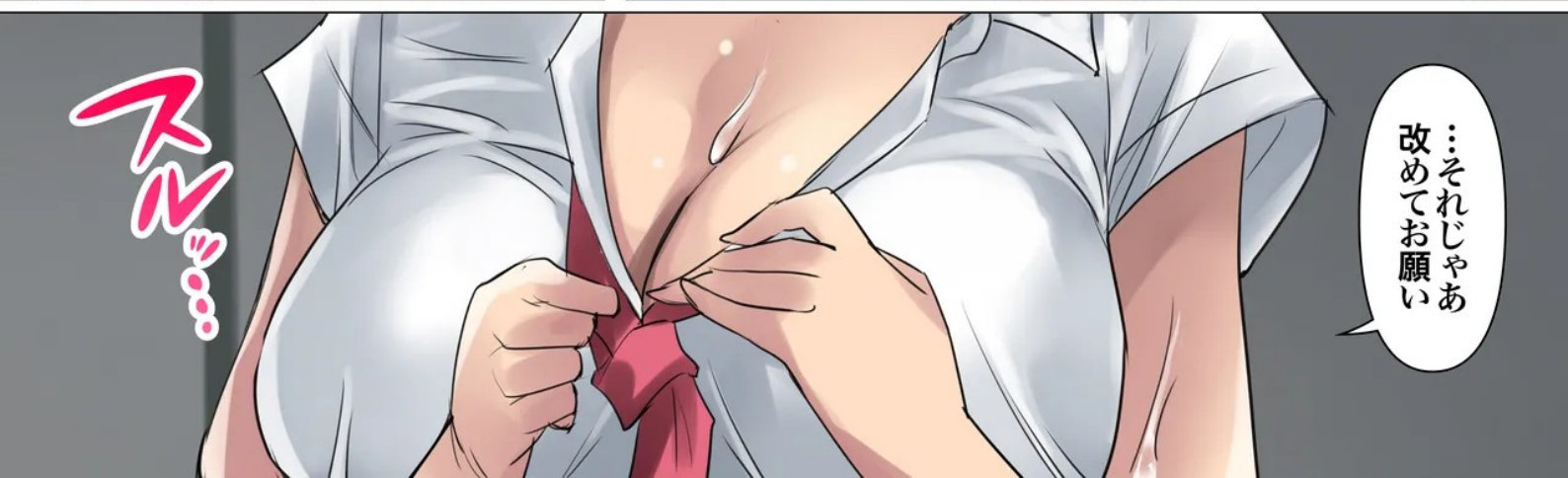
貴方のことが好きだった。

一目惚れだった。

貴方は自分で思っているよりもずっとカッコいい男性よ



そ、そんな...だ、だって...



ズン

...それじゃあ改めてお願い

…私のこと、  
めちやくちやにして♡

あのとき貴方が拾ってくれた  
あの官能小説みたい…♡

ガッ



もう試験も終わって  
残っている生徒も  
いっぱいいるのに…♡  
廊下に声溢れて、みんなに  
見られちゃうっ…♡

あっ…♡はあ…♡  
んあ…♡だめ…♡  
見えちゃう…♡  
こんなの見えちゃうっ…♡

官能小説の登場人物に  
なりきったかのように喘ぐ  
真那さんはいつもより  
3倍増して  
エロ可愛く見え—

いいじゃないですかっ…!!  
そういうの好き  
なんでしようっ…!!  
見せつけてやりましょう、  
貴方と僕の  
破廉恥な姿をっ…♡

こっして嘘のような本当の話で、  
自分は憧れの氷の女帝と  
繋がりが合うことになったのでした

そんな彼女に好意を  
持たれていたという  
知った自分はいま  
調子に乗っていました



ズキッ

ズキッ



そんなこと言っておまんこの方はどんどんキツく締まってきますよっ…

しかし、誰かに見つかるかもしれないというスリルと背徳感、確実に自分達の感度を高めてくれました



言葉とは裏腹に彼女の声は大きく、いつ周囲の人に気づかれてもおかしくない状況でした

いやあつ…♡  
見られたくないっ…♡  
私の破廉恥な姿を見ていいのは…♡  
小野寺くんだけなのおつ…♡



やあ…♡  
恥ずかしいからそれ以上は言っちゃいやあつ…♡

性感はいよいよ高まり、あと少しで絶頂に至るうといふそのときでした



バツカお前、AVかエロ漫画の見過ぎだろ。そんなヤバイことするやつ、現実にいるわけねーだろ

それもそうか

ツン…♡…♡…♡



あれ？  
なんか変な声聞こえねえ？  
女の喘ぎ声みたいなの…



HAHAHAHAHA!

ん…♡…♡…♡



はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

はあ...

あつ...♡んあ...♡はあ...♡  
も、もうやめましよう...♡  
っ、続きはもつと  
人のいない場所です...♡



危ないところでしたね...  
良かったですね。  
恥ずかしい姿を  
見られずに済んで...

はあ...

はあ...



はあ...

はあ...

はあ...

いやっ...♡ああっ...♡  
そんなこと...♡  
そんなことない...♡



はあ...

はあ...

おつ...♡んおおつ...♡  
んほおおおおおつ...♡

何を言っているんですかっ...!  
こんなにいやらしく  
おまんこ濡らしておいてっ...!  
見られている方が  
感じるんでしょうっ...!

ぱんぱん

ぱんぱん

ぱんぱん

じゃあどうい  
プレイがしたいんですかっ……！  
ほら、僕にわかるように  
言ってみてくださいよっ……！

あッ……♡ひあッ……  
んああああッ……♡

いいところで邪魔が入った自分は  
もはや自分の昂ぶりを  
抑えることができません

さらに悪いこと(?)に、  
真那さんは真那さんで  
DM性癖があるのか、  
言葉で責めれば責めるほどに  
締め付けを強くしていきます

いやあ……♡無理っ……♡  
そんなの恥ずかし過ぎて  
無理いつ……♡

終わらないと  
言わないと  
それとも明日の朝、この教室に  
みんなが戻ってくるまで  
二人で繋がりますかっ……！  
僕はそれでも一向に  
構いませんけど……！

……♡突いて欲しいっ……♡  
雄馬が雌馬に種付けする  
みたいになっ……♡  
種付けピストンで奥まで  
突いて欲しいのっ……♡

真那さんは  
自分で自分の言葉に  
感じているみたい  
にますます膣穴を  
強く締めつけます

ああッ……♡  
そ、そんなっ……♡



望むと云うのですっ…!!

ツ♡♡♡

ズチュッ

ズチュッ

ズチュッ

ズチュッ



溢れてくる…♡  
突かれるたびに、  
いやらしいお汁  
溢れちゃううううっ♡

ズチュッ

ズチュッ



おっ…♡おおっ…♡  
んお…♡来てるっ♡  
おまんこの奥まで、  
小野寺くんのおちんちん  
来てるうううううっ♡

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

はあ、

真那さんのおまんこ凄い…♡  
蛇みたいに竿全体に絡みついて、  
油断したら食いちぎられそうだ



あつ…♡やあ…♡  
はあ…♡ひああ♡

それでいて、全体が愛液で  
ヌルヌルしているから  
出し入れがスムーズで  
腰が止まらないっ…!



…キス♡  
小野寺くん…♡  
キスして…♡

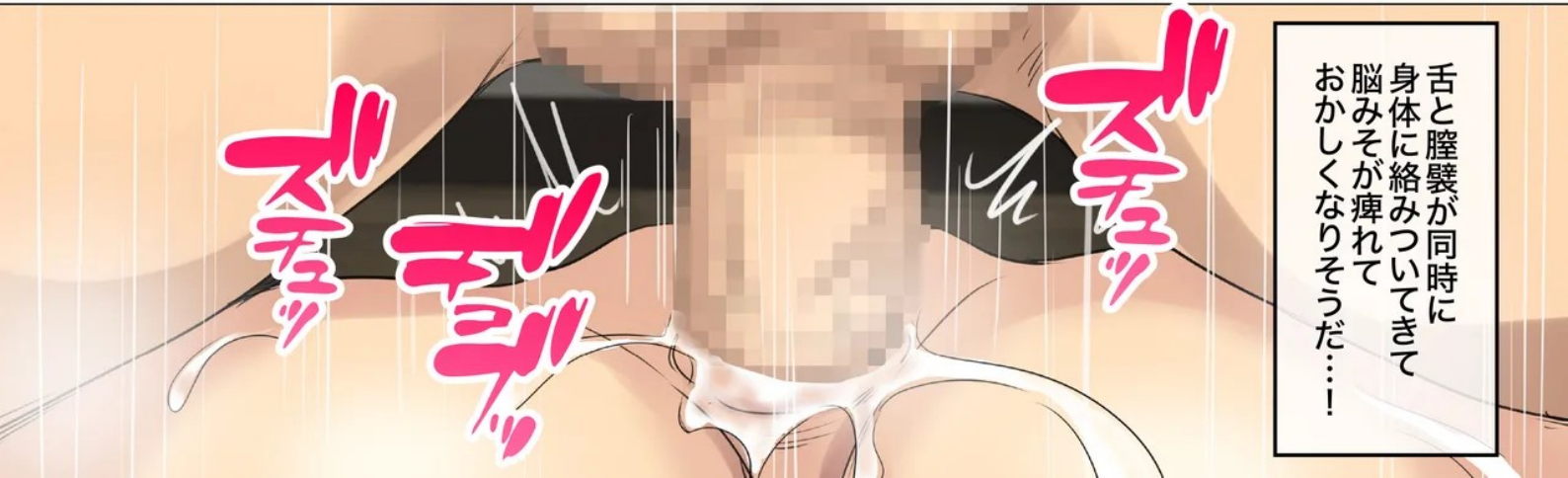


んちゅ♡むちゅ  
むちゅ♡

ああ…♡真那さんの舌っ…♡  
柔らかくて…♡温かい…♡



舌と膣襞が同時に  
身体に絡みついてきて  
脳みそが痺れて  
おかしくなりそうだ…!





小野寺くん…♡  
好き…♡もっ♡と…♡  
もっ♡と激しくして…♡

はぁ…♡  
はぁ…♡  
はぁ…♡



はぁ…♡  
はぁ…♡  
はぁ…♡



あつ…♡ふあ…♡  
ひあ…♡来るっ…♡  
なんかきちやうっ…♡  
あつ…♡

はぁ…♡  
はぁ…♡  
はぁ…♡



ああ、真那さん…!!  
そんな顔でおねだり  
されたら自分は…  
自分はっ…!!

んおっ♡…♡ほお…♡  
おっ♡おっ♡…♡  
おっ…♡ほおおお♡

はぁ…♡  
はぁ…♡  
はぁ…♡



はぁ…♡  
はぁ…♡  
はぁ…♡

はぁ…♡  
はぁ…♡  
はぁ…♡



あの…。九條さん、  
もしかして、今、  
イキました…？

ぎん

~~~~ツ!?

あれ…？なんだか様子が
さっきまでと…
これってもしかして…



はあ…♡はあ…♡
ふう…♡♡

ズン
ズン



あ、これ凶星だ…。ヤバい…。
自分、自分がイクよりも早くに
真那さんをイカせることが
できたんだ…



…動いて

はあ、
はあ、

え…？



恥ずかしさとか、
そういうの全部
吹き飛ばしてしまっ
ぐらいに激しくっ！

ガッ
ガッ

…もつと動いてっ！

グッ
グッ

はあ、
はあ、

はあ、

はあ、

は、はははははは…！



あつ♡はあつ♡
んお♡そうっ♡
もっ♡と♡
もっ♡と♡強♡く♡

はあ、
はあ、
はあ、
はあ、
はあ、



あつ♡♡はあつ♡
しゅごい♡♡小野寺くんの
おちんちん、奥の…
奥の気持ちいいところ
当たってるう♡♡

ここですかっ…!!
ここがいいん
ですわっ…!!

あッ♡らめえっ♡
そこばかり
イジめちゃ…やあッ♡

あ…♡またこんなに締めつけて…
さっき一度イってから、
また締まりがよくなってるッ…♡

はあ、
はあ、
はあ、
はあ、
はあ、

はあ、
はあ、
はあ、
はあ、
はあ、

はあ、
はあ、
はあ、
はあ、
はあ、

おっっ…
おっっ…
んお…
イク…

子宮の奥、
おちんちんで押し潰されて、
私、もうイっちゃううっ…

自分もっ…！自分も
もうイキそうですっ…！

ナカ
膣内につ…！
膣内に出しても
いいですかっ…！

…出してっ♥私の大好きな官能小説みたいにつ♥
子宮の奥に壊れるくらい濃厚なザーメン
奥まで注ぎ込んでっ…♥





イッパッ♡イッパッ♡イッパッ♡イッパッ♡イッパッ♡

くぁ…あああぁ…♡ヤバい…♡
根元まで絡みついできて…
最後の一滴まで搾り取られる…♡



ま、真那さん…
だ、大丈夫ですか…？



え…？

…今、初めて名前で呼んでくれたね



あつ…♡んあはあ…♡
あッ…♡はあつ…♡



オッパッ



…は、はいっ！



…ありがとう♡
とつても気持ち良かった…♡
また明日からもよろしくね、
タクヤくん♡



~~~~~

そして、これから  
長く続いていくであろう  
自分と真那さんの  
始まりの物語なのであります

これがこの夏に起きた  
『事件』の顛末



こちらこそ  
どうぞ未永く  
よろしく  
お願い致します…！

クールでメガネ美人な九條さんは  
ライトノベルのヒロインみたいにエロ可愛い。  
01

発行 アトリエTODO  
漫画 しるこ  
シナリオ ウラジーミル  
編集者 TODO監督  
発行日 2025年7月

連絡先

Twitter @ TodoTodoproduce

Copyright ©2025 Atelier TODO. All rights reserved.

禁

無断転載、無断掲載、アップロード等  
未成年者の閲覧、貸出、譲渡













